

平成23年度 法科大学院入学者選抜試験問題

刑 法

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、60分です。
3. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明や解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答にあたっては、必ず黒か青のペン（鉛筆は不可）またはボールペンを使用してください。
5. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 受験番号・氏名を所定欄に記入してください。
 - (2) 解答用紙は、2枚あります。2枚目の解答用紙にも受験番号・氏名を記入し、ホチキスは、はずさないで使用してください。
 - (3) 訂正する場合は、＝線で消すなどして、分かりやすく訂正してください。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
6. 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

【刑法】

医師 X は、多発性骨髄腫で入院し、すでに末期状態で意識もなくなっていた患者 P を余命数日と診断し、家族に告げたが、1 週間たっても同じ状態で、いびきのような呼吸となったのを見た患者 P の息子 Y から、「楽にしてやってください。早く家に連れて帰りたい」と懇願され、これ以上治療を続けることは、患者のためにならないと思い、早く楽にしてやろうと、塩化カリウム製剤 KCL を希釈することなく、看護師 Z に栄養剤だと偽って、P に注射させ、急性カリウム血症に基づく心停止により死亡させた。Z は、渡された薬剤が栄養剤ではなく、塩化カリウム製剤であることに気づいていたが、早く P が亡くなった方が、自分の仕事が楽になると考え、注射を実行した。また、Y は、これ以上看病を続けることに、肉体的にも経済的にも限界を感じていた。

X・Y・Z の罪責について論じなさい。

〔配点80点〕